

# 遠山で見つけた 白砂の海の痕跡

飯田市南信濃の小池から梶谷へ延びる尾根越し林道で、1億年前にできたチャート岩体の中から魚卵状石灰岩（ウーライト）を見つけました。ウーライトは直径2mm以下の魚卵のような粒（ウーイド）でできた岩石です（写真1）。ウーイドは真珠のような真っ白い粒で、熱帯の浅瀬で無機的につくられ、周囲の環境を白砂の海にします（写真2）。魚卵状石灰岩と周辺の岩石から、当時の堆積環境を考えてみます。

講師：村松 武（飯田市美術博物館学芸員）

日時：9月22日（土）午後1時30分～3時

場所：飯田市美術博物館講堂 ※聴講無料、申込不要



写真1 遠山で見つかったウーライトの顕微鏡写真。

①は生物片を、②は火山岩片を核にして同心円状に成長したウーイドです。（撮影／村松 武）



写真2 <参考>ウーイドが形成されているバハマバンク（中米）の衛星写真（グーグルマップより）